

2009年4月20日

各位

熊本県熊本市南熊本三丁目14番3号
株式会社トランスジェニック
代表取締役社長 山村 研一
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 管理部 部長 中川 隆生
電話番号 078-306-0590

株式会社果実堂との資本・業務提携について

株式会社トランスジェニック（代表取締役社長：山村研一、熊本県熊本市）は、有機栽培ベビーリーフ*を主力販売している株式会社果実堂（代表取締役社長：井出 剛、熊本県熊本市以下、果実堂）に出資を行い、平成21年4月20日開催の取締役会において、両社の将来に向けた持続的な事業発展を目的として、業務提携を行うことを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

(1) 資本・業務提携の目的

当社は、主に遺伝子破壊マウスに関する情報の使用権許諾、遺伝子改変マウス作製受託を行う遺伝子破壊マウス事業および抗体製品の開発・製造・販売、高親和性抗体の作製技術に関する使用権許諾、抗体・タンパク質関連の受託を行う抗体事業を主たる業務としており、基盤研究および新薬開発に有用な遺伝情報を提供することや、抗体を用いた診断薬シーズの探索を通じて社会に貢献することを事業目的としております。

一方、果実堂は食品の機能性分析技術を基盤として、栄養価が高く、予防医学に貢献する食材として注目されているベビーリーフに着目し、これを有機JAS法遵守ならびに厳格な識別番号による徹底的なトレーサビリティを確保して提供することで大手百貨店・大手量販店等から高い評価を受け、商品を供給しております。

当社は、この業務提携により、果実堂の持つ機能性分析技術やトレーサビリティを維持する高い品質管理能力を活用しての事業領域の拡大が可能となります。今後、両社の展開する事業が互いに相乗効果を発揮し、一層の発展を遂げることが期待出来ると考えております。

(2) 業務提携の内容

当社の持つDNA・遺伝子解析技術や抗体を用いた診断技術と、果実堂の持つ機能性分析技術のシナジーを追求し、食品の安全性評価と機能性の解析等新たな事業領域の拡大を検討してまいります。

中・長期的には栄養と遺伝子・疾患の関わりを研究する栄養遺伝学分野及び予防医学分野への参入を図ることを目標といたします。

本業務提携実施の細目については、両社間で発足させる合同プロジェクト推進委員会（仮称）において今後協議を行い具体化する予定です。

(3) 新たに取得した相手方の株式の取得価額

255百万円（3,000株）

(4) 株式会社 果実堂の概要

- ① 名 称 株式会社 果実堂
- ② 主な事業内容 大規模有機栽培ベビーリーフ販売事業
- ③ 設立年月日 平成17年4月6日
- ④ 本店所在地 熊本県熊本市
- ⑤ 代表者 井出 剛
- ⑥ 資本金 227百万円(平成21年4月20日現在)
- ⑦ 発行済株式総数 14,440株(平成21年4月20日現在)
- ⑧ 従業員数 73名(平成21年2月末現在)
- ⑨ 出資後の大株主構成および持ち株比率(平成21年4月20日現在)

氏名又は名称	所有株式数	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社井出事務所	4,800株	33.2%
株式会社トランスジェニック	3,000株	20.8%
井出 剛	1,250株	8.7%
MUFGベンチャーキャピタル1号投資事業有限責任組合 無限責任組合員 三菱UFJキャピタル株式会社	900株	6.2%

※百分率は小数点第2位を四捨五入しております

(5) 今後の見通し

現時点においては、本件が当社の業績に及ぼす影響は未定であります。
今後、重大な影響を与えることが判明した場合には速やかにお知らせいたします。

以上

ご参考：

*ベビーリーフ

ミズナ、ルッコラ、ロロロッサなどの幼葉の総称で、平均5種類から7種類を混ぜ合わせて食べる生鮮サラダです。幼葉には、ポリフェノールやミネラルが多く含まれ、その栄養価の高さからも注目されています。米国では、既に主流サラダ商品までに成長しています。